

大学教育再生加速プログラム取り組み

テーマ I アクティブ・ラーニング

立正大学地球環境科学部におけるアクティブ・ラーニングとは？

A
プロジェクト

**タブレットを
利用した
双方向授業**

- 講義科目での双方向授業
- 学生からの意見収集と議論
- 典型的な解答の例示と解説
- 精彩な資料の利用



取組目標

多人数講義科目でもディスカッションを可能とする
タブレットを用いた双方向教育

講義により新たな考え方を得て、授業時間内に自分の考え方を述べ、教員や仲間からの反応を参考にし、新しい問題発見・解決に結び付けられることを目標とする。

取組内容

教員が一方向的に知識伝達を行う「講義」からタブレットを利用し、学生の意見を取り入れながら行う「双方向授業への転換」

一方向講義



▶ 転換

双方向授業



タブレットを用いた双方向授業の風景



双方向授業による学生からの解答を解説(1)



双方向授業による学生からの解答を解説(2)



双方向授業による学生からの解答例



タブレットの充電や運搬の際に用いるタブレット・カート

タブレットを使うと先生と1対1で話をする感覚になるから、授業内容が今以上にわかりやすくなるんだ。

主な取組科目名

平成26年度

- 大気大循環論
- 災害・防災地図の作成と利用
- 地形学
- 地域自然情報の活用など

平成27年度

- 地域の自然誌
- 自然地理学概論
- 自然計測実習
- 地図と測量の科学
- 地域自然情報の活用



- 自然災害と地域
- 風土と人間生活
- 水文学
- 地域調査法8
- 地学実験など

平成28年度

- 自然公園とエコツーリズム
- 学修の基礎I・II
- 地域調査法6
- 交通地理学
- 環境情報学概論
- 生物学実験
- 環境生物学実習
- 地圏環境学実習
- 環境水文学実験など

※重複する科目を除く

本学による支援

- アクティブ・ラーニングのための無線ネットワーク設備の拡充
- アクティブ・ラーニングのための専用教室新設など
熊谷キャンパスアカデミックキューブ A414, 415教室
(140人収容の中型教室)

今後の課題

手応えあり!

- アプリケーションやネットワークの不具合改善
- 全学的な実施に向けての取り組み

